

# 令和7年 9月の安らぎ通信

## 目次

- (1) 夏の避難 熱中症リスク 体育館、8割「冷房なし」
- (2) 南海トラフ、事前避難 52 万人 「巨大地震警戒」の発表時
- (3) 地震に備え家具など固定 収納物落ちない対策も

## (1) 夏の避難 熱中症リスク 体育館、8割「冷房なし」

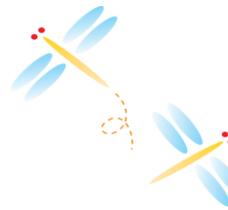
\* 全国の学校の体育館のうち、冷房が整備されているのは2割。

\*避難所に指定されている公立小中学校の体育館の都道府県別の設置率は、市区町村への補助制度を設ける東京都が 92.6%、次いで大阪府が 49.8%。

\*岩手県と佐賀県は1%未満。

\*文科省は費用の半分以上を補助する交付金の制度を設け、空調の整備を進めています。

(2025年8月1日 日本経済新聞記事より)



## (2) 南海トラフ、事前避難 52 万人

### 「巨大地震警戒」の発表時

#### 地域拡大で対象者増も

#### 内閣府調査

\*南海トラフ巨大地震の臨時情報で、最も切迫性が高い「巨大地震警戒」が発表された際、自治体が津波に備えて事前避難を求める住民が全国で 52 万人超。

\*臨時情報は①巨大地震警戒②巨大地震注意③調査終了の3パターン。

\*「巨大地震警戒」はマグニチュード (M) 8 以上で出されますが、これまで発表されたことはありません。

\*「巨大地震警戒」が出た場合、対象となる住民に対して新想定区域外への1週間の事前避難を呼びかけます。

(2025年8月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

### (3) 地震に備え家具など固定 収納物落ちない対策も

\*地震で負傷した人のうち、3~5割は室内における家具類の転倒・落下・移動による負傷。

\*マンションは高層階になるほど「長周期地震動」により大きく長時間揺れ続け、家具類が転倒する割合が高いとの調査もあります。

\*生活空間にある物をできる限り減らします。

\*食器棚や冷蔵庫、書庫の上に置いた物は落下しやすくなります。

\*長時間過ごす場所には、背の高い家具をなるべく置かないようにします。

\*直接倒れてこないような向きや配置にするのがポイント。

\*出入口付近にも家具は置きません。

\*家具や大型家電には、転倒防止器具を取り付け。

\*大地震では「テレビは飛ぶ、電子レンジは落ちて跳ねる、冷蔵庫は歩く」。

\*家具はL字金具とネジで壁に直接固定するのが最も効果が高くなります。

\*ポール式（突っ張り棒式）、振動を吸収する素材を使った貼るタイプなどの固定器具も。

\*単体では効果が低いので、複数を組み合わせて取り付けます。

\*食器棚のガラス部分にはガラス飛散防止フィルムを貼り、扉や引き出しには開くのを防止する器具を取り付けます。

\*転倒防止器具の大きな役目は、いざというときの時間稼ぎ。

(2025年8月30日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

